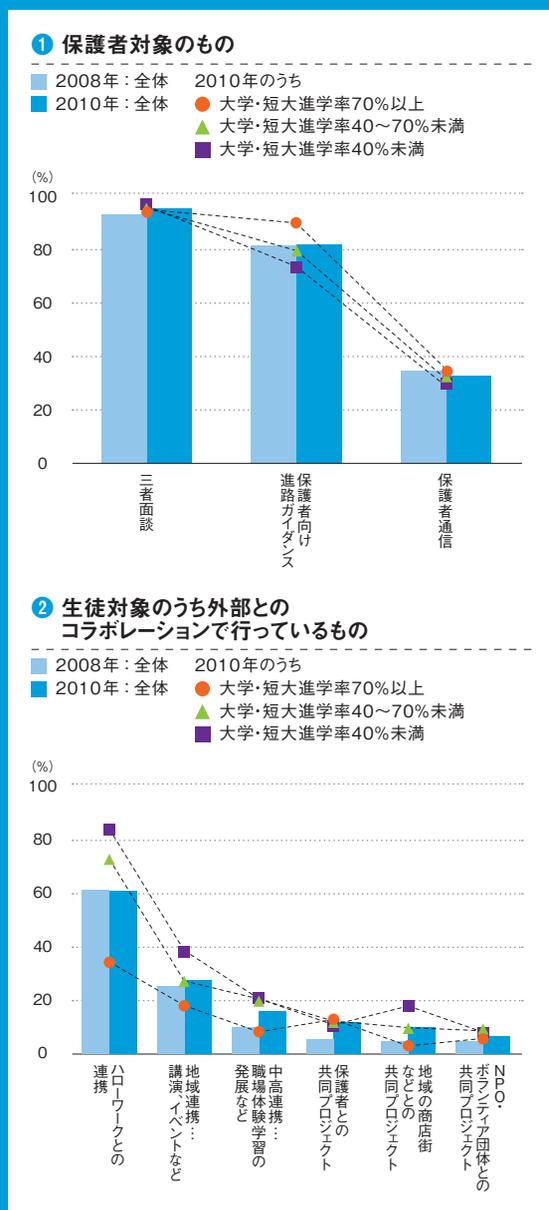


# 保護者と連携した進路行事

保護者向けの進路行事が増えているなか、  
 一歩進んで、学校と保護者が協力し合って進路行事を開催する例が出てきました。  
 子どもにとってよりよい学びの環境を整えるために、  
 互いに知恵を出し合っている事例を紹介します。

取材・文／永井ミカ

図 進路指導で実施している取り組み事項



※ 弊社「2008年・2010年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」より（調査対象：全国の全日制高校の進路指導主事）

**保護者との連携プロジェクトが実施率2倍の伸び**

保護者を対象にした進路行事のおも立ったものは、三者面談、保護者向け進路ガイダンス、保護者通信の発行などで、特に面談とガイダンスは実施率が高い。また、これらは進学率が高い学校ほど実施率が高いことがわかる（図①）。

生徒を対象に学校と保護者が連携して行う進路指導の行事はどれくらい実施されているだろうか。小誌調査によると2010年度、保護者との共同プロジェクトを行った学校は11.8%。これを校外との連携プロジェクトとしてとらえると、上級学校との連携を除いては、ハローワークと

の連携、地域との連携、中高連携に次いで高い数字となった。2008年度と比較すると、実施率は約2倍の伸び。こちらも、進学率の高い学校ほど実施している結果となった（図②）。

**学校と保護者が協力して学びの環境をよくしていく**

学校、家庭、地域が協力しあって子どもを育てようという動きが生まれつつあるなか、さまざまな形の連携の取り組みが生まれてきており、今回紹介する事例のなかには、保護者側からの積極的な企画や提案によって実現したものもある。

保護者にもオープンな姿勢が必要だ。連携プロジェクトに参加した保護者からは、「両者が要求しあうのではなく、お互いに知恵と労力を出し合っている環境を育んでいきたい。そのなかで、子どもたちがのびのびと育ち、自分の未来を見つめてくれれば、親としても言うことなし」という声があった。

保護者に参加してもらえば、親と子で進路を考える環境作りの助けになり、学校が取り組んでいるキャリア教育への理解も進む。生徒にとってのよりよい未来を切り開くために、学校はもっと保護者の力を借りていいのかもしれない。

# オープンスクールや卒業生に学ぶ会に 在校生や卒業生の保護者が協力

— 埼玉・県立 大宮高校 —



教頭  
山本健敬先生

## School Data

普通科・理数科 / 1927年創立  
生徒数 / 1101人(男子612人、女子489人)  
進路状況(2010年度実績) / 大学75.8%、短大0%、  
専門学校0.5%、就職0%、その他(浪人等)23.7%  
埼玉県さいたま市大宮区天沼町2-323  
TEL 048-641-0931  
URL <http://www.ohmiya-h.spec.ed.jp/>

先輩の保護者たちの生の声が  
学校の信頼性を高める

1993年に理数科を設置、2005年にSSH指定を受けた大宮高校。予備校・塾に頼らず生徒の第一志望に応える進学校として、実績を伸ばしている。

同校のPTAでは、各クラスの保護者から3名以上のクラス委員を選出(任期3年)。ほかの保護者と協力しながら、学校のさまざまな行事に関わっていく。

なかでも最も大きな行事が6月に行われる中学生向けオープンスクール。来場者は毎年千数百人規模だが、その日は各教室で公開授業も行われ、教員だけでは対応しきれない。そこで、来場者の誘導なども含めPTAが運営を手伝っている。

その際、特徴的なのは来校した中学生とその保護者を分け、中学生の質問には



オープンスクールや各種学校説明会でPTAが活動。中学生の保護者に対し、親としての立場から学校の様子や子どもの様子を伝える

在校生が答え、中学生の保護者の質問には在校生の保護者が答えるという企画。保護者同士の時間ではパネルディスカッションやブースに分かれた質問コーナーも設けられ、熱心な中学生の保護者ににぎわう。「このくらいの成績ですが入学できますか」といった質問にも、保護者が体験談として答えてくれるのがあるがたいです」と教頭の山本健敬先生。これは、埼玉県でも初の試みで、受験のこと以外にも、学校生活のこと、家庭学習の様子など生の声を聴ける機会として好評を博している。

10月には「卒業生に学ぶ会」が在校生の保護者を対象に行われる。これは「大学合格体験談」が保護者から保護者へ伝えられるもの。全体会ではパネルディスカッションが、分科会では「文武両道で合格」二

年間苦労して合格」といったテーマで、卒業生保護者の生の声を聴くことができ。また、進路部長が在校生保護者向けに受験資料の見方について解説する「親も勉強する部屋」や、父親同士が交流できる「お父さんの部屋」もある。

「保護者と学校が助け合う関係はここ数年作られてきたもので、学校にとっていいことばかりとは限りません。オープンにすれば、当然苦情も増えます。けれども学校は閉じることなく、見ていただいて批判していただく。そういうことが運営には大切だと思っています」と山本先生。学校の熱心な教育的取り組みが、学校からではなく保護者の口から語られることによって信頼関係ができていく。そのことが生徒にもいい効果を及ぼしているようだ。

## 具体的なPTA活動に関連した行事 (PTAクラス委員が関与するもの)

### 7 保護者自身が大宮高校の現状を理解、認識し、より身近なものとして感じるための活動

- ① オープンスクール支援
- ② 各種の学校説明会における「保護者相談コーナー」の設置  
中学生の保護者に向けて、親の立場から学校をPRする
- ③ 強歩大会サポート  
多くの保護者の応援と共に一生懸命頑張る生徒たちに給水を行う

### 1 保護者相互の交流とスキルアップが目的の 保護者自身のための活動

- ① 県外視察研修会(大学見学)  
PTA会員相互の親睦を図ると共に大学を見学して子どもの進路について知見を深める
- ② PTA主催「卒業生に学ぶ会」  
保護者の立場から大学受験に関する体験談などを話してもらう(パネルディスカッション)
- ③ クラス親睦会(クラス委員主催による)  
「話すことによって楽になる。聴くことによって安心する」をテーマとした親睦会  
夏期休業中の土曜日に実施。5月のクラス懇談会(学校主催:方針説明)とは目的が違ふ

# 1年生向け講演会で保護者が語る 仕事のやりがい、面白さ、大変さ

— 東京・都立 富士高校 —



副校長  
河野浩二先生

## School Data

普通科 / 1920年創立  
生徒数 / 731人(男子375人、女子356人)  
進路状況(2010年度実績) / 大学60%、短大1%、  
専門学校3%、就職0%、その他36%  
東京都中野区弥生町5-21-1  
TEL 03-3382-0601  
URL <http://www.fuji-h.metro.tokyo.jp/>



各講演は講義25分、質疑応答5分程度が目安。生徒は1日に2講演を聴き、最後に感想を書く

身近に感じられる保護者の講演  
将来を考える「きっかけ」に

創立90年を超える伝統がある富士高校。2010年度に附属中学校が開校し、中高一貫教育校として生まれ変わった進学校である。PTAは「父母と先生の会」と呼ばれ、同校の卒業生も多く活動も盛ん。さらに2006年には、「子どもの学校について理解を深め、子どもや学校の活動を支援しよう」という趣旨で、有志による「富士おやじの会」が発足した。

そして、「富士おやじの会」が2010年度から高校1年生に向けた進路講演会を開催。保護者が生徒に向けて講演するもので、翌年からは中学2年生向け講演会も

加わった。中学2年生は全体会、高校1年生は分科会式で実施されている。

高校1年生向け講演会は、さまざまな職業の保護者10人が講師として、「現在の社会、仕事」「仕事のやりがい、面白さ、大変さ」などについて語る。対象が1年生とあって、狙いは働く意義や将来の職業、社会に出るために身につけるべき力などを考えるための「きっかけ」作りだ。講演の一覧表を事前に生徒に配布し、生徒は10講座からの講座を選んで受講する。

講師が保護者であることについて、「生徒にとっても、親たちがやっている仕事」というのは身近に感じられるし、自分たちも将来、こうやって社会に出ていくのだということがイメージしやすいと思います」

というのは、副校長の河野浩二先生。講師は会社員が多いが、エンジニアや営業職などひとつの仕事にもたくさんの方があり、醍醐味ややりがい、大変さなどがあることが伝わった。生徒の感想には「マーケティングにおけるシミュレーションの大切さとともに、マーケティングやシミュレーションがさまざまな分野で活用できることを知った」というものもあった。

また、「企業などで経験しているため、みなさんプレゼン力があります。パワーポイントや模型を使ったりなど、教員にとっても非常に勉強になります」(河野先生)と思わぬ効果も。「自分の仕事を見つめ直す機会になった」と講師にも好評で、今後もこの行事を続けていきたい考えだ。

## 保護者による講演会講演一覧(2011年度)

タイトル	職業
システム・エンジニアへの道	システム・エンジニア
みんなの便利な生活を支える物流	物流業
光の魔法による便利な生活	光学メーカー/ 半導体製造装置設計者
夢・希望	サービス情報・通信事業/ マーケティング (新規ビジネスの営業)
国家公務員という仕事 (犯罪者の立ち直りを助ける公務員)	国家公務員
保険てなあに?いろいろな保険、 そして貿易に必要な不可欠な保険	損害保険会社/ 貨物保険の引受業務
素材メーカーの役割	建材メーカー/ 営業
代償の価値とは?	製薬会社/ 営業
きみはアフリカの匂いを運べるか Can you carry the African flavor?	映像制作
エネルギー資源を考える (化石から再生可能エネルギーに向けて)	エネルギー資源探鉱会社/ 地質、人事、IT、総務

# 講演会やインターンシップを 親子で進路を考える機会に

— 兵庫・県立 飾磨工業高校 —



校長  
田中哲也先生

## School Data

工業科／1935年創立  
生徒数／全日制596人(男子587人、女子9人)、  
多部制592人(男子550人、女子42人)  
進路状況(2010年度実績)／大学16.3(多部制は4.3)％、短大1.0(0)  
％、専門学校11.7(14.5)％、就職70.9(75.4)％、その他0(5.8)％  
兵庫県姫路市飾磨区細江319 TEL 079-235-1951  
URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/~shikama-ths/>

進路について親子の会話が弾み  
キャリア教育への理解も深まる

飾磨工業高校は2003年度から単位制となり、従来の全日制課程に加え定時制課程多部制を導入。昨年度は、質の高いキャリア教育を推進するため、自尊心・志、行動力、技能・技術、知力・知識、貢献の5項目を柱にしたキャリア教育プラン「セティックプラン」を立ち上げた。

「キャリア教育を進めるなら全校を挙げてすべての教育活動の中で取り組む必要がある。校内すべての部署で何ができるかを考えていくと、PTAと連携し保護者にもキャリア教育に参加してもらわなければならない」と言うのは校長の田中哲也



親子講演会は7月に就職編、12月に進学編を開催

## 保護者アンケートより 親子講演会で聞きたいテーマ(複数回答可)の集計結果

1. 今企業人になるためにどのような能力がもとめられているのか (52)
2. 家庭で親はどのように子ども(高校生)に接すればよいか (11)
3. 大学に進学し卒業すればどのような進路が考えられるか (15)
4. 大学、短大、専門学校の違いは何か、その学校を卒業した後の進路はどのような違いがあるか (20)
5. 企業人になるために高校生の時にどのようなことをどのように学べばよいか (47)
6. 発達障害、学習障害とはどのようなものか、もしそのような障害があればどのように子を育てればよいか (6)
7. 学力を高めるために、どのように勉強させればよいか (11)
8. 技能を習得するために、どのようにさせればよいか (32)
9. 子どもにコミュニケーション能力を身につけさせるには親はどうすればよいか (26)
10. 今の高校生気質はどのようなものか、その高校生をしつけるために今親はどうすればよいか (20)
11. 親は学校と子どもの進路についてどのように関わっていけばよいか (25)
12. その他のテーマなんでもお書きください(1:食について)

先生。「生徒は学校、社会、家庭の連携関係のなかで学ぶべき。保護者に参加してもらえば、学校への理解も深まるでしょうし、親子で進路を考える機会も増えると思います」

そして、親子で進路を考えるきっかけ作りになればと、今年度から始めたのが保護者と生徒が参加できる「親子で子どもの進路を考える講演会」。まず保護者にとどのようなテーマで講演を聴きたいかを調査し、それをふまえて講師に依頼した。7月には就職編が開催され、保護者と生徒合わせて130人が参加。講演会後の保護者アンケート結果を見ると、「勉強になった」という声と同時に、「社会に出るために必要なことを家庭で子どもと話し合

いたい」「コミュニケーションの大切さを子どもに伝えたい」などの声も多く、きっかけ作りに役立ったことがわかる。12月には進学編が開催され、同様に好評を博した。また、学習活動への保護者の参加も推進。今年度はまずインターンシップに保護者の代表が参加。生徒の職場体験の様子を見学した。保護者自身が企業の生産技術や景況の状況に興味をもって熱心に話を聴くことで、やはり家庭での会話も非常に弾むそうだ。

これらの取り組みにより、三者面談で密度の濃い話ができる、同校のキャリア教育について理解が深まるなどの効果が表れており、これからも取り組みを充実させていきたい考えだ。